
 学 会 記 事

平成 29 年度新潟精神医学会

日 時 平成 29 年 10 月 28 日 (土)
午後 2 時 20 分より
会 場 月岡温泉 ホテル泉慶

I. 一 般 演 題

1 脳回形成異常を伴うてんかん精神病の 1 例

恩田 啓伍・須貝 拓朗・常山 暢人
染矢 俊幸

新潟大学医歯学総合病院精神科

【はじめに】限局性皮質異形成 (Focal Cortical Dysplasia 以下 FCD) は先天性脳器質性疾患であり難治性てんかんの原因となることが多い。病変部位や症状は様々である。今回、精神症状を繰り返す知的障害合併例に対して FCD と診断し、抗てんかん薬にて脳波異常が消失した 1 例を経験したので報告する。

【症例】41 歳，女性。周産期異常なし。初語は 3 歳と言葉の遅れあり。小中学校普通学級，高校 (偏差値 40 台) を成績最下位で卒業後，家業の手伝いに従事していた。X-19 年 (22 歳)，反応が鈍くなることもあり，「悪口を言われている」と被害的な幻聴や，「人の目が気になり怖い」などの妄想が出現し，A 医院 (精神科) を受診した。統合失調症と診断され sulpiride 200mg で加療され，数ヶ月で通院を中断した。X-7 年 (34 歳)，誘因なくぼーっとした様子となり，時々ニヤッと笑うなどの行動が認められ，C 医院を受診し，知的障害の診断で aripiprazole (ARP) 12mg が処方された。この頃から物忘れのため通常の仕事が出来なくなった。X-1 年，徐々に会話の応答や行動が遅くなり，洗濯の仕方や行き慣れた C 医

院への道程などを忘れることがあった。X 年 6 月活動性低下や認知機能の精査目的に D 病院に医療保護入院した。入院時，数分程度の意識混濁を認め，「人に見られてる気がして怖い」と恐怖感を伴う被害念慮が出現した。明らかな幻聴の自覚はなかった。また，けいれん性の全身性発作は認めなかった。血液検査，髄液検査に異常はなく，MRI で前頭部の限局性の脳回肥厚が認められ，発作間欠期脳波では前頭部を焦点とする鋭波が認められた。FCD による非けいれん性複雑部分発作の診断でカルバマゼピンを開始したところ意識レベルや脳波異常は改善し，それに伴い恐怖感を伴う精神症状も改善した。一方，認知機能は鈴木ビネー式知能検査で IQ29 と生来の知的機能よりも低下していたことが判明した。

【考察】限局性皮質異形成 (FCD) とは，胎生期の神経芽細胞の遊走障害による脳器質異常である。FCD も非けいれん性複雑部分発作の原因となりうるが，既報では運動症状を伴う症例の報告がほとんどであった。これは，既報の多くが手術対象例であり，症例が難治性のものに偏っているという選択バイアスがかかっている可能性が考えられる。本症例を教訓に，FCD はてんかん精神病の鑑別の 1 つとしてより周知されるべきである。

2 当院における児童・青年期病棟の現状と課題

吉永 清宏¹⁾・杉本 篤言¹⁾²⁾・松崎 陽子¹⁾
細木 俊宏¹⁾

新潟県立精神医療センター精神科¹⁾
新潟大学大学院医歯学総合研究科
精神医学分野²⁾

新潟県立精神医療センター児童・青年期病棟は，新潟県において唯一の児童精神科の入院病棟である。従って，当センター児童思春期精神科の最優先の使命は，関係機関と連携し，県内の当該分野の入院治療を担うことにある。平成 28 年度の新患外来数は 183 例 (男児 113 例，女児 70 例)，このうち不登校 60 例，虐待関連は 20 例であった。入院症例数は，103 例 (男児 66 例，女児 37 例)，このうち不登校 39 例，虐待ケース 32 例，平均